

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 1 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23521012

研究課題名(和文)瀬戸内海及び西日本における多島海世界の民俗芸能の研究

研究課題名(英文) Study of the folk performing arts of the Seto Inland Sea and the archipelago world  
In West Japan

研究代表者

笹原 亮二 (Sasahara, Ryouji)

国立民族学博物館・民族文化研究部・教授

研究者番号：90290923

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は島々・海・沿岸地域を一体の島嶼世界と捉え、そこで行われてきた民俗芸能を、歴史的に形成・伝承されてきた島嶼世界の民俗文化として解明することを目指し、瀬戸内海を初め、西日本各地の多島海

の海域における島々と沿岸地域の民俗芸能について調査を行い、相互比較を試みるものである。こうした問題意識に基づき、本研究では、西日本最大の多島海海域である瀬戸内海の島々とその沿岸地域を中心に、各地の民俗芸能とそれらが行われる祭について、現地調査、調査報告や論文等に関する文献調査、上演の様相等を記録した動画映像等に関する調査を実施した。その結果、これらの地域の民俗芸能の全体的な様相を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：In this study, I catch the sea, islands, coastal areas with one islands world, and this study aims at elucidating the folk performing arts that has been performed there as folk culture of the islands world where has been handed down the formation to historically and I investigate islands in the sea area of the archipelago of West Japan each place and the folk performing arts of the coastal area and try intercomparison at the start in the Seto Inland Sea.

Based on such a problem consciousness, in this study around islands of the Seto Inland Sea which was the West Japan's greatest archipelago sea area and the coastal area, I carried out a field work about folk performing arts and festivals, and investigation about research reports or articles, the animation pictures which recorded aspects of them. As a result, I was able to clarify a general aspect of these local performing arts.

研究分野：民俗学・民俗芸能研究

キーワード：民俗芸能 島 海 瀬戸内海 民俗学

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 柳田國男と島嶼研究

民俗学の島嶼世界への関心は古い。柳田國男は『海南小記』(1925)を著すなど早くから島に関心を寄せ、戦後も民俗学研究所による離島調査を実施(1925)、『島の人生』(1951)『海上の道』(1961)などを著した。柳田の議論は、a. 島を孤立した世界ではなく、本州・九州などの主島や他の島々との人・物・情報などの移動を介した歴史的・政治的・経済的・文化的な関係において理解を試みた、b. 日本の歴史や文化を主島側からではなく島々の側から見る視点の転換、c. 島の後進性を島外との関係を通じて歴史的に形成された問題と認識し、その解決を研究の重要な目的としたなどの特徴が見られる。そうした関心は、沖縄を通じて「まれば」と「常世」などの神観念や世界観を見出した折口信夫、島嶼や多島海海域の調査を組織的に推進した澁澤敬三とアチック・ミュージアム、現地調査を通じて離島振興に積極的に関わった宮本常一に受け継がれていった。

### (2) 民俗学における島嶼研究の展開

その後民俗学では、離島の民俗の古態の民俗誌的研究(竹田旦『離島の民俗』1968 他)、コスモロジー的研究、風土論的研究などが現れ、それらを通じ、島が地域類型の1つに措定されるに至った(北見俊夫『日本海島文化の研究』1989 他)。こうした研究は、近年の環境民俗学や生態民俗学、地域振興や観光に関する島嶼研究へと繋る。それらは、島を自然環境も含む総体として論じることで、「離島」としての孤立性や辺境性の過度の強調、相互に密接に関連している島の民俗の個々の要素に分解した比較といった、従来の研究のあり方への批判として一定の意義を有するが、沿岸地域などの外部との関係への注目が希薄な感があり、島嶼研究としては必ずしも十分とはいえない。個々の島々や海域に関する民俗誌的研究も多くの蓄積があるが、領域内に議論が終始する場合が多く、やはり十分とはいえない。

本研究は、そうした従来の研究の成果と反省を踏まえ、島外との関係を重視した柳田の視点の方法論的有效性に改めて注目し、外部との関係を重視してそれぞれの島々と併せて沿岸地域の民俗芸能の実態の解明を試みるもので、その意味で、近年の民俗学の島嶼研究とは一線を画すと同時に、それらを補完するものとして位置付けられる。

### (3) 島嶼の民俗芸能の研究の現代性

また、申請者は、これまでの島々の民俗芸能の調査研究を通じて、近年の過疎化・少子高齢化などの急激な社会変化によって、民俗芸能の上演・伝承が危機的状況に直面しているに止まらず、芸能が伝わる地域コミュニティ自体の維持・存続が危ぶまれる状況に頻りに遭遇した。従って、島々の民俗芸能に対す

る現地調査や実態の解明は、本州などの主島部の地方の民俗芸能にも増して、喫緊の課題であることが理解された。

## 2. 研究の目的

西日本各地には、瀬戸内海や五島灘・玄海灘など多くの島々が存在する多島海海域がある。そこでは古来、漁労・商業・交通などを生業とする海の民と、彼らを保護・支配する海の領主の活動圏として、島・海・沿岸地域から成る「領域」が形成されてきた。また、各海域は国内外を巡る航路上に位置し、人・物・情報が往来する「道」として外部と頻繁な交流・交渉が見られた。一方、個々の島は地理的制約から、天候などの自然状況や政治的・社会的要因により外部と隔絶し易く、個性や自律性を有する「コミュニティ」が形成された。更に、瀬戸内海は平家などの強大な政治勢力の活躍の場となり、五島灘や玄界灘は「異国」との境界となるなど、それぞれ独自の地域性が形作られた。こうした海域の「領域」「道」「コミュニティ」という特質と各々の地域性が相俟って、各々の海域独自の歴史や社会や文化が展開していった。

こうした海域の島々や沿岸地域には、海域外と共通しつつも各海域独自の特徴的な民俗芸能が分布する。その一方で、同一海域の同種の芸能にも様々な差異が認められる。こうした民俗芸能の多様性は、「領域」「道」「コミュニティ」といった特質と地域性が交錯しつつ展開してきた、各海域の歴史的環境と民俗芸能の密接な関係の存在を示している。

本研究ではこうした認識に基づき、瀬戸内海を初め西日本各地の多島海海域において、島々を海と沿岸地域と共に一体として「島嶼世界」と捉え、それぞれの島嶼世界の民俗芸能について調査を行い、相互の比較を行うことで、「領域」「道」「コミュニティ」の特質と地域性の中で歴史的に形成・伝承されてきた島嶼世界の民俗文化として、それぞれの海域の民俗芸能の実態を明らかにする。

## 3. 研究の方法

### (1) 現地調査・文献調査・情報収集

瀬戸内海の島々と本州・四国両側の沿岸地域、及び五島灘・玄界灘などの西日本各地の多島海海域の島々とその沿岸地域に伝わる民俗芸能やそれらが行われる祭について、上演の様相などに関する現地調査、調査報告や論文などの先行研究に関する文献調査、博物館や資料館などが有する映像記録を初めとした各種資料調査、調査研究の実績を有する各地の研究者からの情報収集を行う。

### (2) 文献や各種資料の調査と情報収集

本調査の対象となる地域の民俗芸能や祭の全体的な状況を把握するため、各地の図書館や博物館などにおいて、先行研究や調査報告などの文献や映像その他の資料の調査と、既に調査の実績のある各地の研究者からの情報

収集を行う。

#### (3) 上演の様相を中心とした現地調査

先行研究の成果や情報を踏まえて、瀬戸内海を初め各海域の民俗芸能や祭について、現地調査を中心に研究を進める。瀬戸内海は西日本における最大の多島海海域として本研究の主たる対象地域となるので、特に重点的に調査を行う。現地調査と併行して、文献調査や各種資料調査も併せて行う。

#### (4) 域内外の関連事象の補足的調査

本研究が対象とする域外の民俗芸能や域内・域外の民俗的な祭や儀礼についても、比較・参考事例として柔軟に調査を行う。

### 4. 研究成果

#### (1) 現地調査

本調査において現地調査を行った主な民俗芸能及び地域は次の通りである。

獅子舞では、兵庫県洲本市・南あわじ市・淡路市、岡山県笠岡市・倉敷市、広島県三原市・尾道市、徳島県海陽町、香川県東かがわ市・高松市・さぬき市・丸亀市・三豊市、愛媛県今治市・八幡浜市・宇和島市・愛南町、和歌山県御坊市などの各地である。愛媛県東かがわ市の虎頭の舞は、芸態は周辺の獅子舞と共通するが、虎を象った頭を用い、和藤内の虎退治の趣向を演じる点が異なる。同様の虎の頭を用いる獅子舞は香川県大川町にも伝来している。徳島県海陽町と山口県周南市の獅子舞は、何れも曳山巡行に伴う一人立の獅子舞であるが、それ以外は全て大神楽系統の二人立の獅子舞である。

神楽では、岡山県高梁市の備中神楽、広島県三原市の萩原神楽、広島県尾道市因島の中庄神楽、同市生口島の名荷神楽、広島県廿日市市の十二神祇神楽、山口県上関町祝島の神舞神事、山口県長門市の神楽舞、山口県山口市の厄神舞、香川県丸亀市の湯立神楽、香川県観音寺市伊吹島の神楽、愛媛県今治市大三島の大見神楽、愛媛県内子町の立川神楽、愛媛県大洲市の藤縄神楽・鳥坂鎮縄神楽、愛媛県八幡浜市の川名津神楽、愛媛県大洲市・宇和島市の伊予神楽、大分県大分市の国分神楽・宇目神楽、島根県西ノ島町の島前神楽である。

風流踊では、岡山県笠岡市の傘踊・大島踊、同市白石島の白石踊、広島県三原市の太鼓踊、広島県尾道市の太鼓踊、同市因島の法楽踊、山口県山口市・長門市の腰輪踊、山口県山口市の鷲舞、山口県長門市の南条踊・楽踊、徳島県徳島市の神踊、徳島県三好町の神代踊、香川県綾川町の念仏踊、香川県観音寺市の雨乞踊、香川県まんのう町の綾子踊、愛媛県新居浜市のかぶと踊、愛媛県八幡浜市・宇和島市のお伊勢踊、愛媛県愛南町の花取り踊などである。

これらの風流踊は、かつては降雨の少ない瀬戸内海地方の気候に因み、雨乞い踊として

行われていたものも多いが、盆踊として行われてきたものも少なくない。盆踊では、そのほか岡山県高梁市の松山踊、岡山県真庭市の大宮踊、徳島県徳島市の阿波踊・ボ二踊、愛媛県今治市大三島の盆踊、徳島県つるぎ町の廻り踊・繰り上げ音頭などである。盆の時期に行われる念仏系の芸能は、岡山県真庭市の踊念仏、徳島県つるぎ町の踊念仏である。

愛媛県西予市・八幡浜市・宇和島市・愛南町各地に伝わる鹿踊は、鹿の頭を着けて1人で1匹の鹿を演じる風流踊の太鼓踊と同系統の民俗芸能である。

地芝居では、岡山県奈義町の地下芝居、香川県土庄町の農村歌舞伎、愛媛県八幡浜市の地芝居、愛媛県松山市の船踊、人形芝居では、兵庫県南あわじ市の淡路人形芝居、徳島県徳島市の阿波人形芝居・箱廻し、山口県周南市の系操り人形芝居、愛媛県西予市の依津文楽がある。

各地の民俗芸能には、祭の際に御輿の渡御の道中や御旅所などで演じられるものも少なくない。そうした御神幸では、御輿の渡御自体が芸能的に行われる愛媛県松山市の地方祭、愛媛県松山市や岡山県笠岡市真鍋島の走り御輿、神祇と呼ばれる太鼓打ちと造り物屋台が巡行する広島県三次市の小童祇園祭、前述の一人立の獅子舞が演じられる山口県周南市の本山神事、獅子舞や異形の仮面の役が供奉する広島県尾道市のベッチャー祭、獅子舞や牛鬼が伴う愛媛県今治市の菊間祭がある。御神幸の際の囃子が特徴的なものでは、山口県光市の社殿型の造り物の山車の巡行と木遣り歌の早長八幡宮祭がある。御神幸にだんじりが供奉し、それに関わる芸能が行われる祭では、兵庫県洲本市・南あわじ市各地の祭のだんじり巡行とだんじり音頭・伊勢音頭・獅子舞、岡山県岡山市の祭のだんじり巡行と木遣り歌、広島県三原市・香川県高松市・和歌山県御坊市の各地の祭のだんじり巡行と獅子舞、獅子舞・牛鬼・鹿踊・屋台・四ツ太鼓・練り物が伴う愛媛県伊方町・八幡浜市・宇和島市・愛南町の各地の地方祭、徳島県海陽町の祇園祭の曳山・だんじり・関船・稚児舞・一人立の獅子舞、岡山県笠岡市神島の祭のだんじり巡行と囃子、だんじりの巡行自体が芸能的に行われて棧敷から観客が見物する香川県小豆島町・土庄町各地の祭である。

小正月の火祭とそれに関わる芸能では、広島県福山市・三原市・竹原市と山口県上関町の神明祭ととんどの造り物、山口県柳井市の神明祭と神明踊、香川県小豆島町のとんど、愛媛県新居浜市大島のとうど送りなどがある。

その他、水田耕作をおもしろおかしく演じる愛媛県西予市と大分県国東市の御田植祭、造り物・仮装行列・獅子舞が行われる香川県高松市のひょうげ祭、年頭に際して縁起物を奪い合う岡山県岡山市の会陽、愛媛県今治市・香川県三豊市のももて祭の射儀について、現地調査を行った。

## (2) 文献・各種資料調査

岡山県立図書館・広島県立図書館・広島市立中央図書館・山口県立図書館・徳島県立図書館・香川県立図書館・香川県立ミュージアム・愛媛県立図書館・愛媛県立歴史文化博物館を初め、各地の図書館・博物館・資料館において、先行研究や調査報告などの文献や各地の民俗芸能や祭の映像について調査し、必要な資料を収集すると共に、既に研究の実績を有する各地の研究者から情報収集を行った。

## (3) 瀬戸内海海域の民俗芸能の全体像

以上のような現地調査と各種資料の調査や情報収集によって、瀬戸内海の島々と沿岸地域の民俗芸能の全体的な様相を明らかにすることができた。主な特徴としては、以下の諸点を挙げることができる。

### 民俗芸能の分布

瀬戸内海の島々と沿岸地域の民俗芸能は、分布の範囲の広狭によって、ほぼ全域に分布が認められるもの、一部の地域を除いて広域的に分布が認められるもの、一部の地域に分布が限られるもの、ごく一部の地域にのみ分布するものに区分することができる。ほぼ全域に分布するものには獅子舞や盆踊、諸種の風流踊などがある。分布の密度は必ずしも高くないが、やはり全域的に見られるものに、人形芝居、造形に趣向を凝らした造り物の祭などがある。一部の地域を除いて広域的に分布が認められるものとしては、徳島県域や香川県域に分布が希薄な神楽、愛媛県南予地方に分布が見られない太鼓踊、島々に分布が見られない囃子田、徳島県域に分布が見られない地芝居、山口県域に分布が見られないだんじりなどが挙げられる。一部の地域に分布が限られるものとしては、山口県域の腰輪踊、徳島県域の神踊、愛媛県南予地方の鹿踊・牛鬼などがある。分布がごく一部の地域に限られるものとしては、愛媛県八幡浜市域・宇和島市域のお伊勢踊、香川県西讃地方の念仏踊、愛媛県愛南町の高知県境付近の花取り踊、岡山県真庭市域の大宮踊、徳島県海陽町と山口県周南市の一人立の獅子舞、山口県山口市の鷺舞などが挙げられる。

### 広域的に分布する民俗芸能の地域的類型

全域あるいは一部の地域を除いて広範囲に分布が認められる同種の民俗芸能も、細かく見ていくと地域毎に類型として把握できる差異が認められる。ほぼ全域で分布が認められる獅子舞も、張り子製の頭が多い香川県域、演者がほかの演者の肩の上に立って垂直に3段・4段に連なる愛媛県今治市域の継ぎ獅子、唐獅子と呼ばれ、獅子あやしの少年が獅子の前で太鼓を叩く愛媛県南予地方など、地域毎の類型が認められる。一部の地域を除いて広域的に分布が見られる民俗芸能も同様である。だんじりは、太鼓と叩き手を乗せた枠を華やかな装飾の幕で囲い、重ねた布団型の造形物を

載せて、歌やかけ声に合わせて賑やかに昇き廻るといった芸態はほぼ共通するが、兵庫県域や徳島県域ではだんじり、岡山県西部では千歳楽、香川県域ではチョウサ、愛媛県南予地方では四ツ太鼓というように、地域毎に異なる名称で呼ばれている。神楽も、岡山県域の記紀神話を演劇的に演じる備中神楽、花火などを用いた派手な演出が見られる広島県域の神楽、山口県域の神舞、ダイバと呼ばれる鬼面役が登場して観客に絡む愛媛県域の神楽など、芸態や呼称などが異なる地域毎の類型が見られる。

### 島の規模と民俗芸能

島々においては、島の規模の大小によって民俗芸能の分布の度合いに違いが認められる。口説にあわせて踊られる盆踊は島嶼部全域において分布が認められるが、規模の大きな島ではそれ以外にも、淡路島のだんじりやだんじり音頭、小豆島のだんじりや地芝居、大三島の獅子舞や神楽、周防大島の神舞や念仏踊など、様々な民俗芸能が分布している。一方、規模の小さな島では民俗芸能が伝わっていない場合も少なくないが、祭や年中行事などの際に芸能の上演が全く行われなかったわけではない。規模の小さな島でも、大神楽、人形芝居や芝居の一座、箱廻し、大黒舞など、島外から来訪する専門芸能者による芸能の上演が行われていた。特に、人形芝居の一座や箱廻しの来訪の話が各地に伝わっていたり、各地に人形芝居が民俗芸能として定着したりしていることは、阿波や淡路といった人形芝居の本拠地に近いこの地域の特色といえるかも知れない。愛媛県松山市興居島の船踊のような上演に際して演者が船で上演場所へ乗り込む趣向は、そうした往時の専門芸能者の盛んな活動の名残を留めるものと考えられる。

### 江戸時代の優越

この海域の民俗芸能は、その種類や内容などから見ると、江戸時代以降のものが優越している印象を受ける。この海域において広域的に分布する獅子舞、盆踊、だんじり、地芝居、人形芝居などは、実際の芸態や歌謡などを見ると、何れも江戸時代以降に各地に伝来し、定着したと考えられる。一方、囃子田や踊念仏など、それ以前の時代に由来すると考えられる民俗芸能は、本州側、四国側何れも沿岸部から比較的離れた内陸部に分布が認められる。神楽についても、専門業者集団による演劇的な演出で演じられるものと島根県石見地方の神楽との関係が密接なものを除くと、同様の傾向が見て取れる。こうした民俗芸能の分布のありようは、江戸時代以降に様々な芸能が海を回路にこの地域に伝来し、それ以前の民俗芸能の分布に上書きするかたちで定着していったことを予想させる。

### 江戸時代の地域社会と民俗芸能

以上のような瀬戸内海の島々と沿岸地域の

民俗芸能の全体的な様相を包括的に理解する場合、有力な手掛かりと考えられるのは、1つは江戸時代の藩領の存在である。広域的に分布する同種の民俗芸能であっても地域毎の類型的な差異が認められたり、一部の地域に分布が限られたりする民俗芸能の分布の様相は、藩領と対応するかたちで把握できる場合が少なくない。愛媛県南予地方の地方祭における牛鬼・鹿踊・獅子舞・練り物などの複合的な上演が宇和島藩の領域に限られ、その中の鹿踊が伊達家の仙台から宇和島への転封に伴い仙台方面から伝来したとされることや、徳島藩により地芝居が禁止された徳島県域では地芝居の伝承が見られないといった分布の様相、更に、ももて祭や小正月の火祭などの年中行事や儀礼の分布も藩領単位の把握が可能な場合が見られることも考慮すると、藩領が単なる行政区画に止まらず、人々がその中で一定期間生活し続けることを通じ、共通な生活文化を有する一定のまとまりを持った生活世界として実体化していったと理解することができるかも知れない。

もう1つは、江戸時代の瀬戸内海における人々の移動と各地への定着である。それまでは、海賊や海賊に出自を持つ領主に率いられた人々が各地に居住し、活潑な活動を展開していたこの海域は、戦国時代の争乱を経てそうした人々が一掃されると、それまでとは全く異なる出自の人々が農耕や漁撈を生業として住み着くことで、住民が全く入れ替わった地域も少なくない。また、江戸時代には、瀬戸内海の高瀬の発達や、大坂を初めとした上方方面の高瀬物の消費の増加に伴う市場規模の拡大に呼応して盛んになった漁撈によって、この海域を労働の場として行き交う人々や新たに各地に住み着く人々が大幅に増加した。こうした人々の移動や定着に伴い、当時の様々な芸能が域外から伝来し、定着を見たことも十分考えられる。

#### (4) 島々や多島海海域の民俗芸能の理解に向けて

それでは、以上見てきたような、瀬戸内海の島々や沿岸地域における、江戸時代の各地の地域社会のありようと民俗芸能との密接な関係が、ほかの西日本の島々や多島海海域においても同様に認められるのであろうか。九州北西部の多島海海域や壱岐・対馬においても、五島神楽、壱岐神楽、平戸神楽、浮立などは、内容的に江戸時代以降に由来する要素の優越が認められ、分布も藩領単位で把握が可能であることは、瀬戸内海の島々や沿岸地域と共通する。しかし、実際に伝来している民俗芸能を見ると、瀬戸内海の島々や沿岸地域において広範な分布が見られた獅子舞、だんじり、地芝居、人形芝居などは、九州北西部の多島海海域や壱岐・対馬では見られないなど、具体的な様相は両海域では大いに異なる。

また、九州北西部の五島や壱岐や対馬と瀬

戸内海の淡路島や小豆島や周防大島とでは、何れも比較的規模が大きな島々であるが、前者はそれぞれの島独自の神楽や盆踊が見られ、民俗芸能の分布や特徴を島単位で把握することが可能であるのに対し、後者は、だんじりや地芝居のように1つの島内に止まらず、ほかの島や沿岸地域と共通する民俗芸能が見られ、島を一部に含む一定の領域毎に民俗芸能の分布や特徴を把握したほうが適切である。このことは、民俗文化の点で見ると、西日本の島々のほうが、瀬戸内海の島々よりも、島としての独立性や自律性が高いように思われる。

こうした両海域の異同は、それぞれの海域や島々が経てきた歴史の異同が、民俗文化としての民俗芸能のありようと密接に関わっていることを示している。日本列島には両海域以外にも、瀬戸内海や九州北西部とは異なる地理的環境を有し、異なる歴史を経てきた島々や多島海海域が存在する。そうした島々や海域の民俗芸能の理解に対しても、本研究で得られた知見が果たして有効か、具体的な事例を踏まえて精緻に検討することが次の課題となるであろう。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

笹原 亮二「民俗芸能と祭祀 中在家の花祭の現場を巡って」、『国際常民文化研究叢書』、査読無、7巻、2014、369 - 382

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計2件)

笹原 亮二、福原 敏男、西岡 陽子共著『ハレのかたち 造り物の歴史と民俗』、査読無、岩田書院、2014、111頁

笹原 亮二、福原 敏男共編著『造り物の文化史 歴史・民俗・多様性』、査読有、勉成出版、2014、462頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.minpaku.ac.jp>

#### 6．研究組織

##### (1)研究代表者

笹原 亮二 (SASAHARA Ryouji) 国立民族学  
博物館・民族文化研究部・教授

研究者番号：90290923

##### (2)研究分担者

なし( )

研究者番号：

##### (3)連携研究者

なし( )

研究者番号：